

＝沖縄平和行進に参加して＝

大阪支部青年部 佐久原海

5月11日から5月15日の4泊5日、沖縄平和行進に大阪支部青年部から2名、執行部1名が参加しました。

沖縄の平和学習は高校生の頃に修学旅行で行ったことがあったので、またあの時と同じことかと軽く考えていました。

しかし2日目にひめゆり資料館に行き、館長の話を聞き展示物や映像を見て、そんな軽い気持ちがなくなりました。沖縄戦は住民も巻き込む激しい戦争だったため、日本軍や住民は壕という小さな洞穴のなかで生活をしてたと聞き恐ろしかったです。実際に旧海軍壕に入った時は狭く蒸し暑く100名ほど人がいましたが窮屈に感じました。戦時中は何千人もの人たちがいたと聞き想像できませんでした。そしてなにより記憶に残っているのが地元の20歳以下の子供たちが「鉄血勤皇隊」や「ひめゆり学徒隊」などとして日本軍の陣地作りや弾薬運び、負傷兵の看護をさせられていたことを聞き胸が苦しくなりました。「命こそ宝」の言葉の意味を感じることができ、学生の時と今では戦争に対しての感じかたが全然違いました。

そしてその日の夜から、全国の方々や三単産の方々との親睦会がおこなわれました。たくさんの方々語り合い親睦を深めることができました。なにより感じたのが、全国ではこれだけ若い人や自分と年齢が変わらない人たちが頑張っているのだと驚きました。自分が壁にぶつかって辛くても全国の仲間も頑張っていると思うと、組合活動に対し前向きな気持ちになるきっかけとなりました。

最終日、大阪支部単独で辺野古基地反対運動を視察に行きました。インターネットで反対運動の映像を何度も目にすることがありましたが、批判的な言葉を浴びせられていました。わたしの中でもその様なかんがえもありました。しかし実際に自分の目で見て考えが変わりました。辺野古基地はそもそも住民投票がおこなわれ、投票率50%のうち反対70%が反対しています。しかし国は民意を無視し基地建設を強行しています。この行為は民主主義としてどうなのか、そしてこの国はどこへ向かおうとしているのか、政治について深く考えさせられました。

このような政治を変えるのも我々国民であり、ひとりひとりが弱くても団結してたたかえば必ず政治は変えることができます。だからこれからも団結し、わたしたち若手がこれからを引っ張っていく気持ちで突き進んで行きたいと思います。